



2026年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)



2025年8月14日

上場会社名 株式会社力の源ホールディングス 上場取引所 東
 コード番号 3561 URL <http://www.chikaranomoto.com/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長兼CEO (氏名) 山根 智之
 問合せ先責任者 (役職名) IR室 室長 (氏名) 藤澤 成駿 TEL 03(6264)3899
 配当支払開始予定日 -
 決算補足説明資料作成の有無: 有
 決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2026年3月期第1四半期の連結業績 (2025年4月1日～2025年6月30日)

(1) 連結経営成績 (累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年3月期第1四半期	8,505	4.1	466	△18.9	442	△35.3	639	43.1
2025年3月期第1四半期	8,171	15.9	575	0.4	684	0.1	447	△5.0

(注) 包括利益 2026年3月期第1四半期 466百万円 (0.4%) 2025年3月期第1四半期 464百万円 (2.8%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2026年3月期第1四半期	21.28	21.27
2025年3月期第1四半期	14.84	14.82

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2026年3月期第1四半期	18,196	10,855	59.7
2025年3月期	18,541	10,661	57.5

(参考) 自己資本 2026年3月期第1四半期 10,855百万円 2025年3月期 10,661百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年3月期	-	9.00	-	9.00	18.00
2026年3月期	-	-	-	-	-
2026年3月期 (予想)	-	10.00	-	10.00	20.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無: 無

3. 2026年3月期の連結業績予想 (2025年4月1日～2026年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期 (累計)	17,803	7.1	1,283	2.8	1,335	13.4	911	17.9	30.06
通期	37,287	9.1	3,169	12.7	3,262	14.8	2,187	24.4	72.17

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無: 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更：無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
 - ② ①以外の会計方針の変更：無
 - ③ 会計上の見積りの変更：無
 - ④ 修正再表示：無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2026年3月期1Q	30,308,000株	2025年3月期	30,308,000株
② 期末自己株式数	2026年3月期1Q	226,498株	2025年3月期	226,498株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2026年3月期1Q	30,081,502株	2025年3月期1Q	30,130,604株

(注) 期末自己株式数には、「役員向け株式給付信託口」及び「株式給付型ESOP信託口」が所有する当社株式（2026年3月期1Q「役員向け株式給付信託口」73,100株、「株式給付型ESOP信託口」81,020株、2025年3月期「役員向け株式給付信託口」73,100株、「株式給付型ESOP信託口」81,020株）を含めております。また、「役員向け株式給付信託口」及び「株式給付型ESOP信託口」が保有する当社株式を、期中平均株式数の計算において控除する自己株式を含めております（2026年3月期1Q 154,120株、2025年3月期1Q 155,640株）。

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー：無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料5ページ「1. 経営成績等の概況（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

（決算補足説明資料の入手方法）

決算補足説明資料はTDnetで同日開示しております。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当四半期の経営成績の概況	2
(2) 当四半期の財政状態の概況	5
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	5
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
四半期連結損益計算書	8
四半期連結包括利益計算書	9
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(四半期連結貸借対照表に関する注記)	10
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	10
(セグメント情報等の注記)	11

1. 経営成績等の概況

文中における将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

(1) 当四半期の経営成績の概況

当第1四半期連結累計期間（2025年4月1日から2025年6月30日まで）における世界経済は、ウクライナ戦争や中東情勢の悪化に起因する原材料及びエネルギー価格の上昇や、労働人口の減少等による人件費の上昇、アメリカの関税政策に起因する世界的なインフレによる景気減速懸念等、先行きが不透明な状況が継続しております。

当社グループの属する外食産業について、国内においては、人流の増加等による個人消費の拡大や、インバウンドの更なる増加による消費拡大により、経済活動が活発になっている一方で、原材料価格、人件費や物流費のコスト増加、長期間に及ぶ円安による影響や、物価高騰に伴う景気減速の懸念等、引き続き厳しい経済状況にあります。海外においては、地政学的な不安定要素において、原材料価格や人件費等の様々な物価の高騰が続いております。インフレによる金融引き締めは緩和傾向にあるものの、アメリカによる関税政策に伴う更なるインフレの懸念等、引き続き注視が必要な状況にある点は国内と同様であります。

このような状況のもと、当社グループでは、「変わらないために、変わり続ける」という企業理念に基づき、国内においては、新規出店が順調に推移していることや、店舗限定商品の増加、定番となっているシーズナル商品の「太つけ麺」の販売、メディア露出等が集客につながりました。2025年4月には、因幡うどんが福岡県外初進出となる「ハラカド店」をオープンいたしました。更なるQSCの向上及び出店を加速させるため、人員数の増加や、研修機会を拡充しております。また2025年4月より、味噌ラーメン店を運営しております株式会社ライズが、当社グループとなり事業拡大を図っております。

海外においては、引き続きインフレによる原材料価格や人件費、家賃等のコストが増加傾向にあります。世界各地で景気は不安定であり、外食に対する消費マインドは低下しております。また記録的猛暑やデモ等による治安悪化により、来店客数がいくつかの主要拠点において減少傾向にあります。今期は、既存店の改善及びビジネスモデルの修正に注力しておりますが、新規エリアにおける出店やインドネシアにおけるハラル業態の新規出店等、事業拡大を検討しております。

商品販売につきましては、看板商品の一風堂おみやげラーメンの商品リニューアルを実施いたしました。引き続き、国内では一風堂関連商品のB2B営業の強化を行うとともに、海外では、食の多様性に対応した「プラントベース白丸・赤丸」乾麺タイプの輸出販売の拡大に取り組んでおります。

当第1四半期連結会計期間末の店舗数はライセンス形態での展開を含め、当社グループ合計で306店舗（国内166店舗、海外140店舗、前期末比国内10店舗増・海外店舗増減なし）となりました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間における業績は、売上高は8,505百万円（前年同四半期比4.1%増）となりました。営業損益は466百万円の利益（前年同四半期比18.9%減）となりました。経常損益は442百万円の利益（前年同四半期比35.3%減）となり、親会社株主に帰属する四半期純損益は、639百万円の利益（前年同四半期比43.1%増）となりました。

事業セグメント別の業績の概要

<国内店舗運営事業>

国内店舗運営事業につきましては、「一風堂」ブランドにおいて2店舗、「因幡うどん」ブランドにおいて1店舗出店した一方で、「一風堂」ブランドにおいて1店舗閉店したこと、M&Aにより「楓」ブランドにおいて6店舗、「奏」ブランドにおいて2店舗追加されたことから、当第1四半期連結会計期間末における店舗数は166店舗（前期末比10店舗増）となりました。

人流の増加や、インバウンドの更なる増加が売上に貢献いたしました。新規出店が順調に推移していることや、シーズナル商品の「太つけ麺」と店舗限定商品の販売を開始したことや、メディアへの露出増加が集客につながりました。しかしながら、原材料価格や人件費等のコスト増加や6月の猛暑による来店客数減少により営業利益率は悪化いたしました。チャーハン自動調理器の導入等によるDX施策を推進することや、労働環境改善による離職率の低下に伴うスキルアップ等により、営業利益率の改善を図ってまいります。更なるQSCの向上及び出店を加速させるため、人員数の増加や、研修機会を拡充しております。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は、4,098百万円（前年同四半期比12.1%増）となりました。セグメント損益は、284百万円の利益（前年同四半期比14.8%減）となりました。

<海外店舗運営事業>

海外店舗運営事業につきましては、シンガポールに1店舗、台湾に1店舗出店、中国に1店舗出店した一方で、アメリカで1店舗、台湾で1店舗、香港で1店舗閉店したことから、当第1四半期連結会計期間末の店舗数は140店舗（前期末比増減なし）となりました。

当第1四半期連結累計期間の当セグメントにおける対象期間（2025年1月1日から2025年3月31日まで）の状況

は、インフレの影響により原材料価格の高騰や、賃金・家賃費の上昇等に見舞われております。それに伴い、価格改定やコスト見直しを実施しております。しかしながら、計画比では営業利益率は上振れているものの、前年同期比では売上減少により人件費等の固定費率が高まり、下振れしております。今後は、人員配置等の見直しにより、固定費の削減等を進めてまいります。世界各地で景気が不安定であり、外食に対する消費マインドの低下や、各地での記録的猛暑、デモ等による治安悪化により、来店客数が前年同期比で減少傾向となっております。さらに新規エリア開発に伴う初期コストの計上や計画に見込んでおりました新店が遅延していることも営業利益に影響しております。引き続き、コスト上昇に合わせた価格改定や、コスト見直しにより収益の改善を図ってまいります。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は、3,461百万円（前年同四半期比5.5%減）となりました。セグメント損益は、183百万円の利益（前年同四半期比28.9%減）となりました。

<商品販売事業>

商品販売事業につきましては、看板商品である一風堂おみやげラーメンをリニューアルいたしました。また、コンビニエンスストアや食品メーカーとのコラボ商品による認知度向上を進めております。海外においては、新規で台湾の量販店向けに輸出を開始いたしました。引き続き、国内外ともに主力の一風堂関連商品のラインナップ及び販売チャネルの拡大に取り組んでまいります。計画比では、下振れておりますが、一部の売上と営業利益については、第二四半期以降に遅れて計上される見込みとなっております。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は、946百万円（前年同四半期比10.7%増）、セグメント損益は、102百万円の利益（前年同四半期比46.3%増）となりました。

なお、当第1四半期連結会計期間末における当社グループのセグメント別、国別、及びブランド別の店舗数の分布は下図のとおりであります。

セグメント	国名	ブランド	前期末店舗数		増減	第1四半期末店舗数	
				内. ライセンス 契約先			内. ライセンス 契約先
国内店舗運営事業	日本	一風堂	134	25	+1	135	26
		RAMEN EXPRESS	9	-	-	9	-
		因幡うどん	8	-	+1	9	-
		その他	5	1	+8	13	1
国内小計			156	26	+10	166	27
海外店舗運営事業	アメリカ	IPPUDO	7	-	-	7	-
		その他	3	-	-1	2	-
	シンガポール	IPPUDO	13	-	+1	14	-
		IPPUDO EXPRESS	1	-	-	1	-
	中国（含む香港）	IPPUDO	13	13	-	13	13
		その他	1	1	-	1	1
	台湾	IPPUDO	19	-	-	19	-
	オーストラリア	IPPUDO	9	3	-	9	3
		その他	2	-	-	2	-
	マレーシア	IPPUDO	12	12	-	12	12
	タイ	IPPUDO	24	24	-	24	24
		その他	1	1	-	1	1
	フィリピン	IPPUDO	11	11	-	11	11
	インドネシア	IPPUDO	8	-	-	8	-
	イギリス	IPPUDO	4	-	-	4	-
	フランス	IPPUDO	5	-	-	5	-
	ミャンマー	IPPUDO	2	2	-	2	2
ベトナム	IPPUDO	3	3	-	3	3	
ニュージーランド	IPPUDO	2	2	-	2	2	
海外小計			140	72	-	140	72
全社合計			296	98	+10	306	99

(2) 当四半期の財政状態の概況

資産、負債及び純資産の状況

(資産)

当第1四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べ344百万円減少し18,196百万円となりました。これは主に、現金及び預金が419百万円減少したこと等によるものであります。

(負債)

当第1四半期連結会計期間末の負債は、前連結会計年度末に比べ538百万円減少し7,341百万円となりました。これは主に、支払手形及び買掛金が84百万円減少したこと、未払金が108百万円減少したこと、借入金等の有利子負債が289百万円減少したこと等によるものであります。

(純資産)

当第1四半期連結会計期間末の純資産は、前連結会計年度末に比べ194百万円増加し10,855百万円となり、自己資本比率は59.7%となりました。これは主に、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上による利益剰余金が639百万円増加したものの、為替換算調整勘定が175百万円減少したこと、配当金の支払いによる利益剰余金が272百万円減少したこと等によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2026年3月期の連結業績予想につきましては、2025年5月15日に公表した業績予想から変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2025年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	7,150,814	6,731,567
受取手形及び売掛金	837,010	825,375
棚卸資産	514,066	520,226
その他	1,277,475	1,186,342
貸倒引当金	△503	△325
流動資産合計	9,778,862	9,263,185
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	4,419,757	4,470,122
機械装置及び運搬具（純額）	225,719	214,639
土地	636,855	518,178
リース資産（純額）	3,598	3,262
建設仮勘定	232,826	326,346
その他（純額）	324,399	352,761
有形固定資産合計	5,843,157	5,885,308
無形固定資産		
のれん	76,927	94,154
その他	46,300	42,415
無形固定資産合計	123,228	136,570
投資その他の資産		
投資有価証券	149,527	149,314
長期貸付金	10,458	10,258
繰延税金資産	386,883	441,355
敷金及び保証金	1,699,119	1,761,252
その他	563,184	562,593
貸倒引当金	△13,150	△12,950
投資その他の資産合計	2,796,022	2,911,823
固定資産合計	8,762,407	8,933,702
資産合計	18,541,270	18,196,887

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2025年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	907,136	822,390
短期借入金	140,000	140,000
1年内返済予定の長期借入金	1,095,030	1,051,929
リース債務	1,175	1,118
未払法人税等	344,001	325,148
株式給付引当金	5,816	23,443
株式連動型金銭給付引当金	1,096	4,187
賞与引当金	4,233	29,870
株主優待引当金	10,626	27,214
資産除去債務	30,869	31,908
未払金	1,000,957	892,018
その他	1,296,869	1,212,787
流動負債合計	4,837,812	4,562,016
固定負債		
長期借入金	1,370,868	1,125,064
リース債務	2,423	2,143
役員株式給付引当金	76,400	76,400
株式給付引当金	68,314	47,668
株式連動型金銭給付引当金	22,441	21,441
退職給付に係る負債	180,942	174,809
資産除去債務	1,121,719	1,136,667
その他	198,821	194,938
固定負債合計	3,041,931	2,779,133
負債合計	7,879,743	7,341,150
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,148,390	3,148,390
資本剰余金	2,979,419	2,979,419
利益剰余金	3,877,444	4,245,320
自己株式	△319,981	△319,981
株主資本合計	9,685,272	10,053,148
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	11,901	13,523
為替換算調整勘定	964,352	789,065
その他の包括利益累計額合計	976,254	802,588
純資産合計	10,661,526	10,855,737
負債純資産合計	18,541,270	18,196,887

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)
売上高	8,171,487	8,505,695
売上原価	2,419,867	2,549,158
売上総利益	5,751,619	5,956,537
販売費及び一般管理費	5,176,079	5,490,052
営業利益	575,540	466,485
営業外収益		
受取利息	3,659	1,489
受取配当金	1,488	5,879
為替差益	109,740	—
貸貸収入	39,154	38,124
その他	7,923	12,334
営業外収益合計	161,966	57,828
営業外費用		
支払利息	4,536	6,029
為替差損	—	44,177
貸貸収入原価	33,819	31,543
その他	15,073	221
営業外費用合計	53,429	81,971
経常利益	684,076	442,342
特別利益		
固定資産売却益	—	356,810
資産除去債務戻入益	—	5,293
特別利益合計	—	362,103
特別損失		
固定資産売却損	148	—
固定資産除却損	—	196
減損損失	8,779	8,227
特別損失合計	8,927	8,424
税金等調整前四半期純利益	675,148	796,022
法人税、住民税及び事業税	157,409	216,231
法人税等調整額	70,534	△60,205
法人税等合計	227,944	156,026
四半期純利益	447,204	639,996
親会社株主に帰属する四半期純利益	447,204	639,996

(四半期連結包括利益計算書)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)
四半期純利益	447,204	639,996
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△3,823	1,621
為替換算調整勘定	21,133	△175,286
その他の包括利益合計	17,309	△173,665
四半期包括利益	464,514	466,331
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	464,514	466,331

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結貸借対照表に関する注記)

(保証債務)

下記の暖簾分け法人の金融機関等からの債務に対して、次のとおり保証を行っております。

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2025年6月30日)
暖簾分け法人7社	116,660千円	109,335千円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費（のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。）及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)
減価償却費	230,005千円	211,133千円
のれんの償却額	5,280 "	6,382 "

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間（自 2024年4月1日 至 2024年6月30日）

1 報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 2
	国内店舗 運営事業	海外店舗 運営事業	商品販売事業	計		
売上高						
顧客との契約から生じる収益	3,655,604	3,660,773	855,109	8,171,487	-	8,171,487
その他の収益	-	-	-	-	-	-
外部顧客への売上高	3,655,604	3,660,773	855,109	8,171,487	-	8,171,487
セグメント間の内部売上高 又は振替高	-	-	-	-	-	-
計	3,655,604	3,660,773	855,109	8,171,487	-	8,171,487
セグメント利益	333,360	258,359	69,875	661,594	△86,054	575,540

(注) 1. セグメント利益の調整額△86,054千円は、その全額が全社費用であります。全社費用は報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
重要性が乏しいため記載を省略しております。

II 当第1四半期連結累計期間（自 2025年4月1日 至 2025年6月30日）

1 報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報並びに収益の分解情報

（単位：千円）

	報告セグメント				調整額（注）1	四半期連結損益 計算書計上額 （注）2
	国内店舗 運営事業	海外店舗 運営事業	商品販売事業	計		
売上高						
顧客との契約から生じる収益	4,098,040	3,461,021	946,634	8,505,695	-	8,505,695
その他の収益	-	-	-	-	-	-
外部顧客への売上高	4,098,040	3,461,021	946,634	8,505,695	-	8,505,695
セグメント間の内部売上高 又は振替高	-	-	-	-	-	-
計	4,098,040	3,461,021	946,634	8,505,695	-	8,505,695
セグメント利益	284,104	183,814	102,204	570,123	△103,638	466,485

（注）1. セグメント利益の調整額△103,638千円は、その全額が全社費用であります。全社費用は報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
重要性が乏しいため記載を省略しております。